

Monthly Report

2019年8月号

特集

道路標識・標示を
活用していますか？
【高速道路編】

高速道路や自動車専用道路(以下、高速道路)を走行していて、ヒヤッ(※)とした経験はありませんか？交通の流れが速い高速道路では、急なカーブや勾配、複雑な分岐や合流の場面で速やかな対応を求められることから、ドライバーを支援する多くの道路標示や標示板、誘導灯など(以下、道路情報板等)が設置されています。

今号は、高速道路で事故を起さないために道路情報板等の積極的な活用について着目しました。

※1件の重大事故の背後には、29件の軽微な事故、300件のヒヤリハット体験があるといわれています。(ハインリッヒの法則)
事故を起さないためには、ヒヤリハットしない運転を心がけることが大切です。

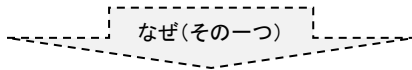
1. 道路情報板等を見落としていませんか？

ここで、ヒヤッとする原因を、考えてみましょう。

・急のつく操作【急ブレーキ、急ハンドルなど】



・事前準備ができていない【予測していない】



◎道路情報板等の見落とし【情報の未活用】

○走行速度が速い高速道路で、ドライバーの判断や操作が遅れると、重大事故の発生リスクが高まります。この判断や操作に必要な重要情報が、道路情報板等に表示されていますので、それを積極活用することが、事故防止に不可欠です。

○近年、高速道路の整備が進み、多様な分岐や合流が可能になりましたが、その一方で複雑化する傾向があり、道路情報板等の活用は、ますます重要になっています。



急カーブと減速



S字カーブと追突注意



複雑な分岐案内



2. 間違いやすい分岐への取組み例

間違いやすい分岐に対応して、各種の取組みがなされている例をご紹介します。



① 予告の情報掲示と、方面別色分け(青:湾岸道、赤:東北道)

② 本線からの分岐と、分岐イメージの掲示



③ 本線から分岐後、路面のカラー標示

④ 再度の分岐前、路面と壁面のカラー表示



⑤ 再度の分岐、路面と壁面のカラー表示(青と赤)

3. 確実、スムーズな運転で事故防止を！

道路情報板等の有効活用に関する注意事項

- ◎ **道路標識・標示や危険要素を声に出して確認する(コメンタリードライビング)**
 - ・注意すべきポイントに集中するため、進路や危険要素などを声に出して確認する。
- ◎ **事前に走行ルートを確認する**
 - ・ナビの情報だけでは複雑な分岐の全体像をとらえきれない。
- ◎ **スピードを抑える**
 - ・道路標識を認知できるよう、走行スピードに注意する。
- ◎ **分岐などで方向を間違えても、無理せずそのまま進行する**
 - ・あわてず、次のIC等で一旦高速道路から降りてやり直す。
- ◎ **自分の車両だけでなく、他の車両の動きに注意を払う**
 - ・他の車両の危険な運転行動を警戒する。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1
ホームページ <https://www.sompo-rc.co.jp>

お問い合わせ先



SOMPO
ホールディングス